

卒業五〇周年同窓会報告

卒業五十周年同窓会

昭和百年 記念すべき同窓会に集う

埼玉大学教育学部 昭和五十年三月卒業生 梅山 健司

令和七年十月十八日(土)、ブリランテ武蔵野において、昭和五十年三月卒業の埼玉大学教育学部卒業五十周年記念同窓会を開催いたしました。昭和五十年に卒業し、五十年がたった今年は、昭和で言えば百年に当たる年であり、記念すべき年回りであることから、あえて「記念」の文字を入れ、開催することにいたしました。

開催準備に当たっては、教友会学年理事七人(井上馨・梅山健司・野口忠・平賀健郎・松澤勇治・野口英世・小谷野健史)が発起人となり、七回にわたる準備会を行いました。当初は、野口英世さんが代表幹事で進めておりましたが、体調を崩されたため、後任として梅山が務めることになりました。準備会では、会の運営や内容、役割の分担等について、さらに十七名の方々に開催当日の幹事を依頼するなど、細部まで検討し、開催の日を迎えました。

開催案内状は、小谷野幹事が担

当し、会員名簿などをもとに三百五十余通を発送し、さらに返信をまとめました。その上で参加意向者を確認し、参加名簿を作成しました(当日の参加者数五十五名)。

当日集まった同級生たち。開場前にも関わらず、久しぶりの再会に、あちらこちらで旧交を温める輪が広がりました。

開会を前に記念撮影を行いました。水谷薫幹事が撮影したデータを持って、野口幹事がプリントに走り、会の途中には参加者全員に記念写真を手渡すことができました。

本会は、井上・佐藤ルミ子両幹事の司会により進められ、平賀幹事の開会の言葉に続いて、物故者への黙祷が捧げられました。

幹事代表の挨拶では、ご支援いただいた教友会への感謝とともに、ご出席いただいた同会会長大澤利彦様へのお礼を、さらに同窓生との再会の喜びを述べさせていただきました。

ご来賓祝辞で立たれた大澤様からは、私どもの学生時代の様々な出来事を丁寧な調べていただき、たくさんお話してくださいました。一つ一つの出来事が、当時を鮮やかに蘇らせてくれました。

松澤幹事の乾杯の発声により、会場は一挙に賑やかに盛り上がり、美味しい食事とお酒を楽しみながら、会話を弾ませる素敵な時間が続いていきました。

中ほどで、平賀・武正光江両幹事が司会となり、思い出のコーナーに移りました。野口忠幹事作成の映像がスクリーンに投影され、埼玉大学の沿革のほか、学生時代の写真が紹介され、「あれは誰々だ。」「あの頃は○○だった。」などと、楽しい会話があちこちから聞こえてきました。

続いて、各テーブルを代表して二分間スピーチをしていただきました。最初に口火を切るお手本役として、林健次、吉澤勝両幹事に話をしてもらいましたが、あの時代の学生の生活が垣間見えるエピソードで、大いに盛り上がりました。お陰で、その後スピーチされた青木美智子さん、丸山昇さん、小林崇代さん、水谷薫さん、大澤章一さんたちも、お酒も手伝ってか、さらに盛り上がるお話をしてくださいました。

思い出のコーナーの最後は、野口幹事の指揮のもと「遠い世界に」

の合唱。懐かしさとともに、別れがたい歌声が響き渡りました。懐かしい友と再会した喜びとたくさんの思い出が皆の心に蘇った同窓会も、とうとう小谷野幹事先導による締めとなりました。

最後に、井上幹事の会計報告並びに閉会の言葉により、記念すべき本同窓会がお開きとなりました。陰で支えていただいた当日幹事の新井守、石塚保二、谷村伊都子、丸山昇、松田元子、若林茂次、奥直、鈴木薫、小島佐知子、大熊直美、河野栄子、田中郁子の皆さんに感謝。



卒業四十五周年同窓会

絆が一層深まる

埼玉大学教育学部 昭和五十五年三月卒業生 守屋 敏夫

令和七年十月二十六日(日)正午、三十三名の参加を得て(やむなく欠席ながら、一八八名から近況報告等あり)、ブリランテ武蔵野エメラルドの間にて、卒業四十五周年同窓会を開催いたしました。前回が平成三十年十二月二日でしたので七年ぶりの同窓会です。

司会者は幹事の西川和利さんで、開宴前にまず記念撮影。続いて、卒業後にご逝去された同窓生に、謹んで哀悼の意を表して黙祷を捧げました。

久保寺光明幹事による開会の言葉に続き、吉田睦代代表代理幹事による挨拶は、代表幹事の田村俊一さんの話(急遽の入院で欠席されたこと)、皆さんが元気に集まれたことを幸せに思うこと、免疫力は笑いで高まる旨の挨拶で、一気に同窓会開催のボルテージがあがりました(田村さんにはハガキの発送や取りまとめ、準備や手配の一切を担っていただきました)。

教友会事務局長である松澤勇治様による祝辞は、教友会支援の「卒業五X周年同窓会」のご紹介と三つの「シヨク」を大切にしているというお話(①食べるシヨク…日

本の伝統的な食事の大切さ ②触れ合うシヨク…触れ合うことと一歩踏み出すこと ③職業のシヨク…無理のない範囲で働き続けること)をいただき、感銘深く拝聴させていただきました。最後に、教友会顧問の金子美智雄様がまとめられた「埼玉大学の今昔」と「埼玉大学創基一五〇周年記念年表」のご紹介や「埼玉大学ホームカミングデー二〇二五」溝口紀子氏のご講演のご紹介、そして最後に、この会で皆様の絆が一層深まることを願っておりますとご挨拶をいただきました。

そして、関根隆之幹事による乾杯の発声。関根さんには事前にな学に趣いて同窓会冊子の表紙(正門から見た大学風景)を描いてもらいました(当時の木がとても見事な木々となり、立派な大学になったとの紹介も付け加えてありました)。

いよいよ、歓談です。各テーブルが大変盛り上がり、いつの間にかテーブルを越えて会場が大賑わいとなりました。

司会の西川さんから、テーブルごとに一番遠方より参加された方

に挨拶をいただきたい旨の話があり、跡部和恵さん、毛塚悟さん、設楽政夫さん、濱口正巳さん、森野重明さんらが快く引き受けてくださいました。近況報告や大学当時の思い出等を限られた時間ながら語っていただき、大いに盛り上がりました。突然のご指名にもかかわらず、ありがとうございます。

余興で、岩崎功さんと渡辺肇さんにギター演奏をしていただきました。四十五年前の当時の流行曲・森田公一とトップギャランの「青春時代」、井上陽水の「夢の中へ」、チューリップの「心の旅」の三曲を続けて弾いていただき、会場のみんなで手拍子や口ずさんで盛り上がりも頂点に達しました。

最後に、小学校課程代表の中村一夫さんと中学校課程代表の三谷暁男さんに締めをお願いしました。三谷さんは、再会できたことに感謝して万歳三唱をいたしました。

小林幸美幹事から「健康でまたお会いできる日、卒業五十周年同窓会を楽しみにしています。」と閉会の言葉をいただき、終宴となりました。

諸連絡として、吉田睦代代表代理幹事より口頭による会計報告があり、皆様よりご承認をいただきました。

あつという間の夢のような二時間三十分で、参加者の絆が一層深まりました。教友会のご支援や皆様のご協力に、心より感謝申し上げます。

五年後は、より大勢の同窓生が健康で元気に参加いただけることを願いながら、卒業四十五周年同窓会の報告といたします。



退職時期同窓会

四十年の歳月を越えて

埼玉大学教育学部 昭和六十一年三月卒業生 石井 宏明

澄み渡る青空のもと、穏やかな
 天氣に恵まれ、私たちは、十一月
 二十二日土曜日、ホテルブリラン
 テ武蔵野二階「エメラルド」にお
 いて、ご来賓として、教友会副会
 長の高瀬浩様をお迎えし、退職時
 期同窓会を開催しました。

私たちは昭和六十一年三月卒業生
 は、合計五百六十七名おりました。
 その内、連絡先が分かる方二百五
 十一名に同窓会開催の案内を差し
 上げたところです。その後、各専
 攻・専修ごとに口コミで広がり、
 お蔭様で、八十一名の同窓生が集
 い、盛大に開催することができま
 した。参加者の中には、海外から
 駆けつけていただいた方、また、
 熊本県や三重県、秋田県など遠方
 から参加いただいた方もおり、当
 初、どれだけの参加者となるか心
 配しておりましたが、多くの方に
 参加いただいたことに、幹事(学
 年理事)一同、感謝の気持ちでいっ
 ぱいです。

司会は、幹事の金子正さんと渡
 邊祐子さんです。幹事の山田浩一
 さんの開会の言葉で、いよいよス
 タートです。

まず、私が、幹事代表として挨拶
 を申し上げます。

次に、ご来賓の高瀬様からご祝
 辞をいただきました。まず、退職
 を迎えられたことに対するお祝いの
 言葉。人生百年時代を迎え、今
 後それぞれの人生を歩み、「自分
 物語」の続きを創ってほしいと激励
 されました。また、教友会事業
 の説明、当日開催されたホームカ
 ミングデーの報告がありました。

そして、幹事の肥土耕一さんより
 乾杯の発声があり、いよいよ歓
 談です。会場は、九テーブルで、
 一テーブル八人、十人が座ってい
 ます。専攻・専修ごとに座席を工夫
 したことにより、乾杯後は、す
 ぐに和やかな会話が始まりました。
 近況報告や学生時代の思い出など、
 大いに旧交を温め、語り合ってい
 ます。杯を重ねるごとに次第に賑
 やかになり、還暦を過ぎた者同士
 ですが、まるで、学生時代に返っ
 たようです。

続いて「ビンゴで『近況&思い

出話』です。山田浩一さんの進
 行のもと、ビンゴゲームを行い、
 先に「ビンゴ」になった方に近況
 報告や思い出についてスピーチし
 てもらおうという企画を行いました。
 埼玉大学公式キャラクターの「メ
 リンちゃん」グッズを賞品や
 参加賞として用意しました。
 先に六名の方が「ビンゴ」と
 なり、賞品を受け取ることも
 ありました。思い出や近況につい
 て、ユーモアを交えてのスピー
 チで大いに盛り上がり
 しました。

締めと閉会の言葉は、幹事
 の長江清和さんです。

その後、記念写真の配付方
 法や会計報告などについて
 連絡し、閉宴となりました。

あつという間の二時間三
 十分。閉宴後は、参加した皆
 さんが、なごり惜しそうに会
 場を後にしました。その後
 も、多くの方々から、私ども
 幹事への慰労の言葉や次回
 同窓会への期待の言葉など、
 多数のメールをいただきました
 しております。「お陰様で、楽
 しい同窓会でした」「久しぶ
 りに友達に会えてよかった
 です」「幹事の皆さん、本当
 にありがとうございました」
 「また、皆さんで集まりたい
 ですね」など、幹事一同、感

無量です。
 結びに、「退職時期同窓会」開
 催にあたり、多大なご支援をいた
 だきました教友会の皆様に深く感
 謝を申し上げます。誠にありがと
 うございました。



卒業三十周年同窓会報告

同窓の「ご縁」に感謝して

埼玉大学教育学部 平成七年三月卒業生 大井 敏彰

令和七年九月十三日(土)、ブリラ
ンテ武蔵野において、平成七年三
月卒業の埼玉大学教育学部卒業三
十周年同窓会が開催されました。
十五年前に卒業十五周年同窓会を
開催してから二回目になります。前
回は参加者が十名程しか集まりま
せんでした。そこで今回は、「参加
者数三十名」を目標にして準備
を進めることにしました。

案内の発送は五月下旬に行いま
した。教友会事務局からいただいた
宛名ラベルを使用して、約七〇
〇名の同窓生のうち、名簿に住所
が掲載してある一八二名に案内を
発送しました。案内には、二種類
のQRコードを掲載しました。一
種類は出欠回答フォーム、もう一
種類は案内のPDFをダウンロード
できるようにして、郵送できな
い方への拡散をお願いしました。
回答締切を七月二十二日に設定
して回答を待ちました。六月末時
点で参加申込は十名弱であったた
め不安でいっぱいでしたが、残り
一週間で参加申込が増え、締切時
には二十七名の参加申込がありま
した。目標の三十名には届きませ
んでしたが、前回の倍以上の参加

者が集まったことに、ほっと胸を
なでおろしました。

参加者確定後、皆さんに喜んで
いただけるよう八ページのしおり
を作成しました。次第や参会者名
簿の他、回答していただいた情報
を基に、近況報告集をまとめまし
た。その際、埼玉大学のキャラク
ター「メルリンちゃん」の画像を使
用できるように、埼玉大学の事務局
に申請し、しおりに掲載しました。
また、学年理事は私と塩崎陽子
さんの二名しかいなかったため、
当日の協力者を募ったところ、阿
部亮介さん、今田裕子さん、太田
禎治さん、中島豊さん、辺見万希
子さんが、快く引き受けてくれま
した。何とも心強い仲間を得て、
当日を迎えました。

同窓会当日、午後一時に幹事七
名で集合し打合せをした後、受付
を開始しました。受付は今田さん、
辺見さんが担当してくださり、笑
顔で参加者を迎えてくれました。

参加者が参集した後、会に先立
って記念写真を撮影しました。撮
影後、円卓に着座し、いよいよ開
会です。司会は大田さんと中島さ
んに務めていただき、中島さんの

開会の言葉で卒業三十周年同窓会
が開宴しました。

僭越ながら、私が幹事代表のあ
いさつをさせていただき、ご参会
いただいた皆様に歓迎の言葉と感
謝の気持ちを伝えました。続いて、
ご来賓である教友会副会長の秋本
文子様からご祝辞をいただきました。
秋本様はご祝辞の中で、教育
学者の森信三さんの言葉を引用し、
「ご縁」のお話をしてくださいま
した。秋本様のお話を聴きながら、
卒業して三十年間、離れ離れにな
っていた私たちの心が、「ご縁」
という言葉でつながっていくこと
を感じました。その後、塩崎さん
による乾杯の発声で歓談に移りま
した。各テーブルでは、大学時代
の思い出や現在の様子を語り合い、
賑やかに旧交を深めていました。

暫くして、司会が大田さんに交
代して第二部「近況報告」が始ま
りました。大田さんは社会を専攻
しており、遠方の参会者から順に
指名しながら、軽快な口調で地理
的な情報を織り交ぜながらユーモ
ラスに進行してくれました。トッ
プバッターは、愛媛県から夫婦で
ご参加いただいた酒井さんです。
その後、一人一人の話が続きまし
た。学生時代はあまり交流がなか
った間柄でも、同窓の「ご縁」を
感じながら大学時代を共にした仲
間の話に大いに盛り上がりました。
二時間半はあっという間に過ぎ、

最後は阿部さんの締めでお開きと
なりました。解散する前にLINE
Eグループを作成して写真を共有
しました。そして、五年後の再会
を約束して帰路につきました。

結びにあたり、本会の開催にあ
たり多大なるご支援・ご協力を賜
りました教友会事務局の皆様、素
敵な会場を提供してくださったブ
リランテ武蔵野の皆様、そしてご
参会いただいた皆様に深く感謝申
し上げ、報告とさせていただきます。
ありがとうございます。



卒業二十周年同窓会

笑顔と絆でつながる二十年の歩みと、未来への約束

埼玉大学教育学部 平成十七年三月卒業生 若村 健一

令和七年八月十六日(土)、ブリランテ武蔵野において、平成十七年三月卒業の埼玉大学教育学部卒業二十周年同窓会が開催されました。当初は、卒業十五周年での実施に向けて準備を進めておりましたが、ご承知のとおり、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、延期を余儀なくされ、卒業二十周年での実施となりました。

教友会名簿で確認をしますと、平成十七年三月の教育学部卒業生は、五五三名でした。そのうち、連絡可能な方は百二十九名ということもあり、また、開催日はお盆明けの時期ということもあり、当日何名の出席があるか幹事として心配でした。

今回の同窓会では、グーグルサイトでホームページを作成し、そこに当日のチラシを掲載したり、当日に係る情報を掲載したりして、できるだけ多くの人に参加してもらうことができるよう周知に努めました。実際にホームページ上で二次元コードから申し込みもできるようにして、当日の出席者は、学年理事も含め、二十一名でした。ありがたいことに遠方からかけつ

けてくださる方もいらっしゃいました。

参加の人数は少なかったですが、当日は専修を超えて参加者同士が当時の思い出話に花を咲かせるなど、会場が学生時代に戻ったかのような雰囲気となりました。

当日は、開会に先立っての写真撮影の後、司会である島田直也幹事からの開会の言葉で開宴しました。

開宴ののち、教友会からご来賓としてお越しいただいた副会長である福島正美様から、ご祝辞を賜りました。福島様からは、現在の埼玉大学のことについて、当時と重ね合わせながらお話をいただきました。また、卒業生である私たちにに向けて、昔のことが今につながっており、大変なことももちろんあるが、充実した毎日を過ごせるようにしてほしいとエールをいただきました。

次に、障害児教育コースに在籍していた三浦駿介さんの乾杯の発声により、歓談がスタートしました。席を固定せず、立食としたことで、参加者がテーブルを転々としながら、大学時代の思い出や現

在のことについて、話す様子が多く見られました。会を通して笑顔や笑い声が途切れることのない、終始にぎやかな会となりました。

当初予定はしておりませんでしたが、歓談の中で急遽一人一人からスピーチをいただくことにしました。一人の持ち時間を三分としましたが、三分で収まる参加者はほぼおらず、それぞれが大学時代の思い出や大学卒業後から現在までの様子や近況について熱く語っている様子が大変印象的でした。話を聞いている参加者からは、時折笑いが起こったり、拍手が起きたりするなど、会場が一体となって盛り上がる様子が見られました。参加者それぞれが、これまでの二十年を振り返り、専修は違えど同じ大学で学んだという共通の土台や仲間の存在を感じ、大きな励ましや支えになったようなそんな時間でした。

会の締めは、第一の締めを総合教育学部専修の土屋智治さんから、第二の締めを英語専修の三國寿之さんから、そして大締めに幹事を代表して若村が行い、盛大に締めくくることができました。

参加者からは「ぜひまたこのような機会があれば参加したい」「十年後の再会も楽しみ」との声が多く上がり、幹事としては開催してよかったと安堵しているところで



本会を開催するにあたっては、新型コロナウイルス感染症の関係で延期になってから五年の時が経ってしまいましたが、二十周年という節目の年で開催が実現できたことは、ひとえにご支援・ご協力をいただいた教友会の皆様のおかげと深く感謝しております。結びになりますが、教友会事務局の皆様、ブリランテ武蔵野のスタッフの皆様、参加していただいた皆様に感謝申し上げ、卒業二十周年同窓会の報告とさせていただきます。教友会のますますのご発展を祈念しております。誠にありがとうございました。

卒業十五周年同窓会

懐かしさと喜びに包まれて

埼玉大学教育学部 平成二十二年三月卒業生 肥田 幸則

令和七年十一月一日(土)、ホテルブリランテ武蔵野二階「エメラルド」の間において、平成二十二年三月卒業生による「卒業十五周年同窓会」が開催されました。大学卒業以来、生活や仕事の拠点を埼玉をはじめ全国各地に広げながら、それぞれの道を歩んできた仲間たちが一堂に会し、懐かしい思い出を語り合い、笑顔と温かな交流に包まれたひとときとなりました。

思い起こせば一年前、幹事の阿部健作さんが

「目標は百名集めましょう。」

と、力強く宣言されたことを今なお鮮明に覚えています。そして、「来てよかったと思っていただけのような楽しい会にしよう」との思いを胸に、幹事一同、当日まで準備と計画を進めてまいりました。特に、一人でも多くの方々に参加いただくため、全ての専修より代表者を選出し、SNS等を活用して積極的に情報発信を行いました。その成果もあり、当日の出席者数は目標には届かなかったものの、最終的に六十二名もの方々にご参加いただき、幹事一同、大変嬉しく思いました。また、当日ご

参加いただけなかった方もいらっしやいましたが、この機会に各専修のグループラインが立ち上がり、改めてつながりを持つ手段が生まれたことは、大きな成果であると感じております。

当日は、司会を幹事の吉田真梨さんが務め、幹事代表挨拶を私が行いました。また、ご来賓として教友会副会長の石田耕一様にご臨席賜り、挨拶を頂戴いたしました。石田様は、私たちが学生時代に埼玉大学の教職支援室に在籍され、日頃より教職を志す学生に温かいご指導を賜った先生であります。当日のご挨拶においても、卒業生の歩みを温かく見守ってくださるお言葉を頂戴し、参加者一同、改めて母校との絆を深く感じる事ができました。

その後、参加者代表の葛原順也さんに乾杯のご発声をお願いし、会中は和やかに始まりました。会場には、子連れの方も安心して過ごせるスペースも設けられており、和やかな雰囲気の中で交流が始まりました。乾杯後しばらくして、全体での集合写真をプロのカメラマンである大村将也さんに撮影し

ていただきました。続いて、各専修より一名ずつ代表者によるスピーチを頂戴し、学生時代の思い出や、卒業後から現在までの歩み、子育てや仕事の近況などが語られました。中には、この「卒業十五周年同窓会」に寄せる熱い思いを述べられる方もあり、会場全体が温かい雰囲気になりました。短い時間ではありましたが、お一人お一人が充実した生活を送っていることが伝わり、参会者にとつて大変有意義な時間となりました。

会も盛り上がりを見せたところで、本日のスペシャルゲストである元お笑い芸人「大福」として活動されていた三澤良太様(埼玉大学教育学部卒業生)によるスペシャルライブが行われました。「埼玉大学あるある」のオリジナルソングに加え、ユーモアあふれるトークにより、会場は終始笑いに包まれ、参加者にとつて忘れがたいひとときとなりました。

余興はさらに続き、幹事の奥田勇司さんご選定による豪華賞品争奪くじ引き大会が開催されました。抽選は石田様にお願ひし、当選者には高級和牛、ズワイガニ、ホタテ、ラーメン、温泉旅行(入浴剤)など多彩な景品が贈られました。

最後には、幹事の阿部健作さ

んより「次の卒業二十周年同窓会は、もつと多くの方々に参加してもらいましょう。」との力強い締め挨拶があり、盛会のうちに閉会となりました。

結びになりますが、「卒業十五周年同窓会」へのご支援・ご協力をいただきました教友会の皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

